

**音楽ジャーナリスト & ライターの眼**  
~今週の音楽記事から~

新着記事一覧 ▶  
ジャンル別一覧 ▼  
新聞社別一覧 ▼  
ライター別一覧 ▼  
ライター紹介 ▶

新聞社の音楽記事、音楽ライターによる書き下ろし記事を集めたウェブサイトです。

日 月 火 水 木 金 土  
毎週、月・木更新

音楽ライター記事

つぶやく・ブックマークする

## ショパンが愛した楽器、プレイエルによる平井千絵のショパン

配信日：2011年4月18日 | 配信テーマ：クラシック

フランスのピアノ製作の全盛期は1800年代初頭から後半にかけてのわずかな期間とされ、とりわけプレイエルとエラールという2大メーカーが有名である。

ショパンはそのプレイエルのピアノをこよなく愛したことで知られ、1832年2月26日にサル・プレイエルでパリ・デビューを行っている。もちろん演奏に用いた楽器はプレイエルで、柔軟性に富み、美しい響きを持ち、繊細な音色が特徴だった。

そのプレイエルの楽器を用いた演奏会は、近年日本でもたびたび行われるようになっているが、ここに1840年にパリで作られた楽器を使用して録音したアルバムが登場した。

現在はオランダのデン・ハーグ在住のフォルテピアノ奏者、平井千絵の「1840 プレイエルピアノで綴るショパン&グリンカ」(ACCUSTIKA)で、オランダで録音された新譜だ。

これはクラシック・アーティストの創作・表現活動をサポートするTYL (ティーワイリミテッド) という芸術支援活動のサポート作品として選定され、発売されたものである。

平井千絵は桐朋学園大学ピアノ科卒業後、オランダのデン・ハーグ王立音楽院古楽科(フォルテピアノ)でさらなる研鑽を積み、さまざまな国際コンクールで賞を得、ヨーロッパ各地の音楽祭に招かれるようになる。

2007年からはアムステルダム音楽院とハーグ王立音楽院の古楽器科(フォルテピアノ専攻)より招かれ、学内試験審査員を務めるなど、後進の指導にもあたっている。

CDはショパンの「舟歌」や「幻想ポロネーズ」「マズルカ 作品56-2」など1840年代に書かれたものと、グリンカの1847年の作品「祖国へのあいさつ」が見事な融合を見せ、プレイエルが作品の生まれた時代の響きを色濃くただよわせる。

平井千絵はこの楽器の音色を「ヴェールのかかった真珠のような高音、じんわりと語るような中音域、パワーではなくその独特な色で包み込むような低音域」と評している。彼女は曲目解説も綴り、楽器を初めて弾いたときの感触もこまやかに記している。

昨年ショパン・イヤーには数えきれないほどのショパンの演奏を聴いたが、ここに聴くショパンはこれまで耳にしたことのない新たな響きを提示するもので、ショパン

今週のお奨め記事

<音のかなたへ>シン・ヒヨンス

---

砂原良徳を変えたイエロー・マジック・オーケストラ 曲のゲー...

---

<記者が選ぶ今週はコレ!・ポップス>上原ひろみの新トリオ作...

今週の人気記事 Best 3

(1位) <記者が選ぶ今週はコレ!・クラシック>森下元康追悼の豊橋交...

---

(2位) <楽屋ばなし>伊藤京子 アルゲリッチの人柄に感激

---

(3位) <記者が選ぶ今週はコレ!・クラシック>「こどもの日コンサート」...

の作品の奥深さ、響きの多様さに目を開かれる思いがする。

ショパンはジョルジュ・サンドとのマヨルカ島への逃避行の際にも、パリからプレイエルの楽器を取り寄せた。そのピアノは現在もバルデモサのカルトゥハ修道院に残されている。そんなにもショパンはこの楽器を深く愛した。

平井千絵の奏でるこのショパンは楽器の大切さを示唆し、まさに聴き手を作曲家の時代、作品が生まれた土地へといざなう。音から歴史が見え、時代が蘇り、聴き手の想像力を喚起する。そんな思いを強くするCDだ。



発売元:ACCUSTIKA(アコースティカ)  
発売日:2011年3月30日  
品番:PPCA-616  
価格:¥2800(税込)



2010年4月18日音楽ジャーナリスト&ライターの眼(1版)掲載 執筆者:伊熊よし子

[音楽ライター記事一覧を見る ▶](#)

## クラシック のテーマを含む関連記事

### 毎 <音のかなたへ>シン・ヒョンス

この春もなぜ桜が咲くのだろう。幾重も重なった花びらは、散り続けているのに、動きも時も停止している。花と、周りの社会とのかかわりが、切れているからだろうか。極まった美は痛々しく、行き場がないように見える。それは私が東北を襲った大惨事を知っているから、そう感じるのだから...

### Y 献身的な愛 究極の喜び チョン・ミョンフン ソウル・フィル率いたクト

韓国生まれの世界的指揮者チョン・ミョンフンが、自ら音楽監督を務めるソウル・フィルハーモニー管弦楽団を率いて来日する。今年58歳、エネルギッシュな俊英から精神的な深みを求める大家へと変貌しつつある素顔に迫った。(松本良一) パリ・オペラ座やフランス国立放送フィルなど欧米...

### 毎 <記者が選ぶ今週はコレ!・クラシック>「こどもの日コンサート」で演奏する 深田麗音

全日本学生音楽コンクールの全国大会で、筆者は何年かに一度は大興奮する。必ずしも優勝者、入賞者とは限らない。全く無名の児童・生徒が、その瞬間、どこにもない才能の輝きを聴かせてくれるのである。最近では、中学の部でサン・サーンスを弾いたバイオリンの成田達輝。その後、彼は桐朋...

### 6 マーラーの音楽は、人間のあらゆる感情がコラージュのように組み立てられているように感じられます

現在公開中の映画「マーラー 君に捧げるアダージョ」は、ウィーン一の美女と称された才能豊かなアルマと結婚し、次々と大作を世に送り出したマーラーの人生を描いたもの。しかし、

幸せは長くは続かず、アルマの不倫が発覚し、マーラーは追いつめられていく。彼は精神科医のフロイトに助...

**毎** <楽屋ばなし>伊藤京子 アルゲリッチの人柄に感激

「改めてアルゲリッチの人柄に触れた思いです」と5月8～16日に予定通り別府アルゲリッチ音楽祭を開く同音楽祭総合プロデューサーのピアニスト、伊藤京子が感激している。「東日本大震災が起きた2日後の13日、アルゲリッチから『音楽祭を中止にしないで、こういうときこそ日本で皆...

**毎** <記者が選ぶ今週はコレ！・クラシック>森下元康追悼の豊橋交響楽団特別演奏会

ウィーン・フィルよりうまい、と筆者が絶賛した愛知・豊橋交響楽団を育てた森下元康が亡くなって1年。同楽団による追悼の特別演奏会が5月1日午後2時から、豊橋市のライフポートとよはしコンサートホールで開かれる。豊橋交響楽団は地方のアマチュア交響楽団である。しかし森下が指揮...

[ページの先頭へ戻る ▲](#)



RSS

[お問い合わせ ▶](#)